IWATE
SECTION OF
THE JAPANESE
ALPINE
CLUB

JAC岩手支部通信 第 55 号

発　行 2023 年 3 月 31 日
発行者 阿部陽子
事務局 高橋勇一
盛岡市下田字古河川原 20
mail：iwt@jac.or.jp

(公社)日本山岳会岩手支部

秋田・岩手支部合同山岳古道調査にて

目　　次

巻頭言　阿部陽子　1
例会山行
　地竹山・野沢額山　高橋瑞穂　1
　秋田街道　高橋勇一　2
　子規古道・黒森山　中屋重直　3
　仙北街道　澤口　誠　4
　方面森　齋藤忠利　5
　岩手山古上坊　高橋時夫　6
　愛染山　鳩岡美波　7
　メンズクメ山　熊谷加奈子　7
　網張温泉スキー場　久保　豊　8
　桐ノ木沢山　阿部陽子　9
　毛無森　久保　豊　10
　メンズクメ山資料　渡邊博厚　11
県山協行事
　残雪期講習会　小山田千鶴　13
　鳩岡美波　14
　沢登り講習会　高橋勇一　14
　岩登り講習会　和泉由美　15
　初冬期講習会　高橋瑞穂　16
　岩手山
　　八合目避難小屋当番　澤口　誠　17
　　冬期小屋切替作業　澤口　誠　17
編集後記　高橋勇一　18

巻　頭　言

支部長　阿部陽子

令和４年４月３日の総会以降、岩手支部の活動が始動してから１年が経過しました。支部通信 55 号では､総会で承認された内容ならびに例会山行と会員の動向をご報告することになります。

本年度は会員･準会員あわせて 55 名による運営です。支部の相談役として顧問を置くことを総会で取り決め、３名の元支部長にお願いすることで承諾を得ました。会員動向としては高齢化による委員辞退や退会をされた方々が目立ったことから、本年度の役員改選で委員を刷新し、また、規約を改正して支部費を０円にしました。

月１回の例会山行については、３年目のコロナ感染対策により宿泊なしの日帰り山行を通常どおり進め、加えて古道調査を組み入れたことで活発化を図っています。岩手支部が担当した秋田街道は、秋田支部と合同で踏査したことにより、隣県どうしの交流をも深まり、江戸時代から明治、昭和・平成を経て令和に至るまで、道の変遷を知るよき機会となりました。二つ目の仙北街道は、奥州市から秋田県東成瀬に通ずる古道です。一気通貫で歩けば二泊三日を要するこのロングトレイルは､40 代～70 代会員の連携によって無事繋ぐことができました。

その他、県山岳協会主催の講習会に参加した新入会員の資質が向上したこと、岩手山の荷上げや八合目避難小屋管理に携わったことで、他の山岳会との交流も幅広くなされました。

また年末に急きょ、120 番目の古道として岩手山を選定したいとの申し出を受け、次年度は岩手支部三つ目である上坊コース（山岳信仰の道･古上坊はコラムとして加筆）を探査することになります。今般、スマホを使いこなす年代は若者に限りません｡｢岩手山の古道｣が意味する知見を幅広く探りましょう。

例会山行「地竹山・野沢額山」

高橋瑞穂

令和４年３月 26 日（土）

私が初めて地竹山・野沢額山に登ったのは 2020 年１月だった。積雪期であり、当然ラッセルでトレースもなかったが、初めての山で余計にワクワクし、霧氷が美しかったのを覚えている。地竹山は検索しても山行の記録はほとんど見当たらない。皆、なかなか行かない山なのだと思う。思いがけず、今回、幹事となり再訪する機会となった。ルート確認のため、三日前に山友と二人で下見に行った。

岳から入り、作業道に出て進むと登山道らしき道もある。尾根を進むと地竹山山頂が遠くに見えるが、実際はそれほどの距離ではない。

地竹山は 865.7m、三等三角点「地竹山」。三角点ハンターの私はスコップ持参。下見から積雪がほとんどなかったので、三角点はすぐに見つかった。山頂プレートは壊れてほぼないに等しいものと確認していたので、前夜に自分で作成し、今回設置した。記念すべき自作プレート第一号である。

（地竹山山頂にて）

地竹山から野沢額山へは登山道らしきものはなく、里山あるあるの急登、しかも長い。晴れていれば、鶏頭山方面を見ながら登れるのだが、当日は生憎の曇り空。しかし、元気

なメンバーが揃うと見えなくてもワイワイ楽しいので頑張れる。

野沢額山は1124m、三等三角点「野沢額」。ランドマークと三角点は離れている。ここでも三角点を見つけたいが積雪が100cm以上ある。下見の時に狙いをつけて掘ったが見つからず。今回も皆さんに手伝ってもらい、数か所掘ったが結局は見つけられず…残念。

（三角点を探して雪を掘る滝浦会員）

後日、無積雪期に行った滝浦さん情報によると、あとわずか数十cmのズレだったとか。惜しかった。そのうち、自分でも確認してみたいと思う。あとは、2020、2021年にランドマークでも三角点でもない場所に野沢額山の青いプレートがあったのだが、下見と今回にはなかった。どこへ…

野沢額山からは紫波江繋線の道路へ向かって下山した。途中、天候がよいと美しい早池峰山が見えるスポットがあるのだが、見えなかった。皆さんに見てもらいたかったなぁ。今回の山行は６時間半と長めであったが、皆さんの協力のおかげで、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができた。

ここは積雪期、残雪期以外はどんな山だろうとも思いを馳せた。

参加者10名：幹事=高橋瑞穂・阿部陽・中屋熊谷加・幅下・齋藤・滝浦・高橋時・照井今野

例会山行「秋田街道」

高橋勇一

令和４年５月28日(土)

今回の例会山行は秋田支部との合同での古道調査。

古道調査ではあるが、他県の支部との合同での山行はこれまでに無い事で楽しみであったが、参加人数も多くなり少し不安な気持ちもありました。

当日の朝を迎え、自宅を出る時に雨は降っておらず天気はなんとか大丈夫かなと思いながら集合場所の「道の駅雫石あねっこ」に向かうも、徐々に空模様が怪しくなってくる。そして雨が降り出してしまう。

旧秋田街道の入口は国道46号線を挟んで、道の駅の入口のちょうど反対側にあり、「旧秋田街道入口」と書かれた標柱も立っている。道の駅から入山地点までは片道約 4km。そこまでは車でピストン輸送。準備を整え登山開始。県境の仙岩峠を目指します。峠まで向かう道は電力会社でも鉄塔の巡視などで入っている為なのか、荒れているという事もなく歩きやすいものだった。所々に倒木があり、ノコギリで切りながら進んで行きました。

（左 旧秋田街道の標柱　右 国道貫通記念碑）

程なくして仙岩峠に到着、県境に立つ石碑の前で記念撮影。そしてそこからヒヤ潟へ向かいます。途中には助小屋跡地の石碑がありました。ヒヤ潟に到着しそこで昼食となりました。ヒヤ潟には国道が開通した時に立てられた巨大な記念碑がありました。そこからは使われなくなった旧道を通り峠の茶屋まで下りました。

２回目の調査は11月３日に行いました。２回目の調査は人数を絞り少数で行いました。この日は国見温泉の駐車場に集合し、８時30分頃から調査開始しました。先ずは国見温泉から笹森山を目指しますが、この日の天気も曇り空、この後の天気がちょっと心配です。これまで国見温泉から秋田駒ヶ岳へは何度か登っていましたが、笹森山へは登った事がありませんでしたので、楽しみにしていた事のひとつでした。しかしこの日の笹森山山頂からの景色は、厚い雲に覆われていました。しかも段々と雲行きが怪しくなる。

そこから国見峠に向かい９時30分頃に到着。県境の石碑のところで記念撮影をして、今回は旧46号線ではなく昔の峠道に向かって行きました。しかし、ここで雨が降り始めて来ました。カッパを着て歩き始めるも、これまでのように道は整備されておらず藪漕ぎが始まりました。所々危険な場所もあり、注意して歩かなければいけませんでした。途中には土のぼっと一里塚と刻まれた石碑がありました。これは田沢湖町教育委員会によって立てられたもののようでした。

下山後は仙岩峠の茶屋でおでんをご馳走になり、国見温泉石塚旅館で温泉に入り解散しました。

（仙岩峠の茶屋の名物おでん）

参加者19名：幹事=高橋勇・今田・滝浦・森齋藤・高野・鳩岡・中屋・久保・澤口・志田今野・小山田・阿部陽・澤野・熊谷・鴇田照井　一般：熊谷徳明

例会山行「子規古道・黒森山」

中屋重直

令和４年６月25日(土)

西和賀町湯田の近くに県道12号(花巻大曲線）がある。女神山の登山口に向かうルートで知られているが、地図を見るとバッテン印で道が消えてしまう。また、秋田県側を探すと、やはり県道12号線が美郷町六郷と「黒森峠」をつないでいるが、県境部分は通行止め、というか道がない。この黒森峠が黒森山登山口であり、20分ほどで一等三角点黒森山763m（黒森神社奥の院）に登頂できる。例会山行は、車道が切れた地点から山に入り、県境の笹峠620mを越えて秋田県の黒森峠へつなぐ古道の踏査を目的とした。

（一等三角点「黒森」にて　標高763m）

そもそもこの道は荒川街道といわれ、明治16年に横手の篤志家が個人で拓いた採草の目的の生活道路だった。俳人正岡子規が新聞社の依頼で「奥の細道」をたどる旅に出たのが明治26年８月。福島、仙台で思うように支援者が現われなかったため、日程と費用がかさみ、しばしば送金を催促している。子規がどうしても行きたかったという象潟を訪ねたあとは、横手では早く東京に帰りたい心境になった。おりしも、宿の人が「新しい路ができたから」と件の峠越え新街道を紹介したのを聞いて、昼に横手を発ち、黒森峠～笹峠～湯田（湯本温泉）を歩いて通過したのであるが、誰にも会わず、茶店もない想像外の険しさ、街の灯火が遠い心細さ、空腹で疲労困憊したと記録している。おまけに湯本温泉の旅館は満員で、台所の片隅で眠られず、という句が記されている。

昭和 40 年代に県道の舗装整備が着工されたが、民家もなく往来が増える見込みもないとの判断からか、峠付近の工事は中断したまま車両通行不能の状態で現在に至った。その代わり、子規の句碑がいくつも建てられて「子規古道」と命名され、歴史の道として歩道を活用できるようになっている。秋田県側も、正岡子規が黒森峠を通ったことが記されていた。

山路 3.5 km、岩手県側は倒木があるものの道幅はひろく、30 分足らずで秋田県境に着く。惜しむらくは峠から先の路は尾根から外れぎみで、しかも手入れされていない藪のため、ひとりふたりで進むには無理がある。今回は 17 名もの集団が 1 列で進んだので、もちろん先頭のアルバイトのおかげであるけれど、全 7 時間半かかって往復 16 kmを歩くことができた。

参加者 17 名：幹事=中屋・高橋瑞・阿部陽
高橋勇・滝浦・久保・高野・澤口・鴇田・森
今田・熊谷・澤野・齋藤・志田・今野・小山田

例会山行「仙北街道」

澤口　誠

令和 4 年 8 月 11(木)

仙北街道を知ってますか？

仙北街道は、仙台藩と秋田藩を結ぶ最短ルートとして奥羽の歴史に登場したのが宝亀 7 年（776）。何と 1200 年余りの歴史を持つ。岩手県側では「仙北街道」、秋田県側では「仙北道」あるいは「手倉越」と呼んだ。この古道の魅力は、ただ歴史が長いというだけではない。一帯は、1990 年 3 月、白神山地や八幡平玉川源流部とともに、栗駒山・栃ケ森山周辺森林生態系保護地域に指定されている。そのど真ん中を横断し、現在もなお開発から逃れて、ほぼ昔のまま現存している。つまり現代に残された「奥の細道」あるいは「奇跡の古道」とも言える。※ 秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会より抜粋。

日本山岳会は創立 120 周年を迎えるにあたり、記念事業として、古道、特に山岳古道の調査を現在調査中。

今回歩いた古道は仙北街道。大胡桃山 934m、小胡桃山 782.7m の周回。

つぶ沼キャンプ場の駐車場に集合して登山口へ移動。登山口は車が 8 台位置けるスペースが有り。

歩いた感想としては本当に素晴らしい古道。先人が歩いてきた道がしっかりと残っていて歩きやすく、奥深く、雰囲気も良し。ブナの大木もとても美しい。

ここの古道の魅力はもう一つ。石碑です。ルート上に沢山の石碑が有り、見つけるたびに嬉しくなりました。

（三等三角点「小胡桃」を探し当てる）

小胡桃山の三角点はみんなで協力して笹藪から見つけましたが、大胡桃山の三角点は今回はパス。

秋田県側まで本当は行きたかったが前日までの雨で小出川の渡渉が困難と判断し後日に歩く事とした。

とても有意義な一日となりました。

参加者 7 名：幹事=澤口・阿部陽・中屋・滝浦
高橋勇・高野・高岡

●令和 4 年 10 月 30 日仙北街道リベンジ編

前回歩く事の出来なかったルートを澤口、高橋勇、川村で歩いてきました。

今回のルートは秋田県東成瀬村手倉～豊ケ沢林道車止め～藩境塚(秋田藩と仙台藩の境界､岩の目沢)～丈の倉～引沼道～五本ブナ～柏峠(1018m)～山の神(天保の石碑)～笹道別れ～ツラコブ～中山小屋(秋田･岩手の荷物交換場所、お助け小屋)～小出の越所(お助け小屋)～亀の子～栃川落合～ツナギ沢～マタギ坂～大胡桃山(934m)～840m 分岐～岩手県奥州市胆沢区大寒沢林道終点の逆ルート。

大寒沢林道スタート。ブナの紅葉が素晴らしい。いきなり始まる急登。分岐に着く頃には汗だく。尾根を歩いて大胡桃山到着。今日は焼石岳が見えた。

ここからが未踏。ツナギ沢まで一気に高度を下げる。ツナギ沢から渡渉の連続が始まるので長靴に履き替える。

渡渉、渡渉の連続。しかも滑る岩。怖い。何度も渡渉を繰り返して小出川到着。恐れていた水量は低く一安心。小休憩して靴を履き替える。小出川からの急登が凄かった。紅葉を横目に息が上がる。

953 ポイントで昼食。直ぐに体が冷える。長居は無用。直ぐに縦走開始。この辺りから熊の気配が凄かった。大量の大きな糞が今まで見た事無いくらいある。熊棚も。

熊に警戒しつつ三角点【柏峠】に到着。ゴールはあと少し。県境をしばらく歩くと駐車場到着。デポしておいた車が見えたときは安堵した。ここを昔の方々が歩いたと思うとなんだか考え深い。

歴史を知ると登山は面白い。

例会山行「方面森 749m」

齋藤忠利

令和４年９月19日(月)

令和４年山行案内書(計画書)の９月を見たとき、幹事が私で対象の山が「方面森（かたづらもり)」とあった。まともでは読めない字である。早速、インターネットで調べてみたが私の技術では、ほんのわずかな情報しか得られなかった。そこで副幹事の滝浦氏と相談、幸い阿部支部長から１ルートの情報を得られたが､その他は登山道らしきものは無いこと、ヒルが多いこと位しか集まらなかった。そんな状態で滝浦氏と下見を行い一応２とおりのルートを確認できた。

９月19日山行本番を迎え、午前８時、阿部支部長、中屋副支部長、高橋事務局長をはじめ澤口、高野、高岡、今野、高橋瑞、小山田、滝浦､齋藤の11名が花巻市スポーツキャンプ村に集合し、当日天候は雨であったことから比較的急登の少ない方面森林道コースを登ることとした。

登山口に到着したところ、阿部支部長がスプレーを取り出し手足に吹きかけていた。聞くと「ヒル除け」とのこと。さすがベテラン準備も周到である。それを見て、特に雨の日でもありヒルに怯えながら８時50分登山開始。コースには登山道はなく、あっても獣道のような道、そして藪こぎである。それでも全員元気で順調に進み､９時55分３等三角点(大森509m)に到着した。さらに頂上に向け探しながら道なき道を進み11時40分頂上に到着した。

ここまで間、澤口誠氏は下山時迷わないよう「赤色コースサイン(赤ふん)」を登山道から頂上まで付けてくれた。進行方向に変化があるときはその場所にテープを２本付けるとのこと｡私だけかも知れないが勉強になった。登ってみてわかったのは「残雪時に上るべき山」ということであった。

頂上で昼食ののち下山開始、澤口氏のお陰で道なき道も迷うことなく14時10分登山口に到着。全員無事に到着したと思いきや、数名が見事ヒルの餌食になっていた。私も昔噛まれたことがあるが「痛痒い」感覚で、人によっては腫れあがることもあるとのこと。ともあれ大きな怪我もなく全員無事に下山した。

参加者11名：幹事=齋藤・滝浦・阿部陽
中屋・高橋勇・澤口・高野・高岡・今野
小山田・高橋瑞

例会山行「岩手山古上坊」

高橋時夫

JAC岩手支部10月例会岩手山古上坊コース踏査を、10月10日(スポーツの日)に実施しました。計画では、江戸時代まで岩手山参拝道として利用されていた旧上坊コースの古上坊史跡から旧１合５夕の道標を確認して三十六童子経由で平笠不動に至る参拝道です。

10月10日は、1964年東京オリンピック開催日でスポーツの日として国民の祝日。

当日は、前線が東北地方を通過。前日までの快晴とうって変わり夜半から雨模様。

山行計画の中止も脳裏をかすめましたが、予定通り集合地の岩手山焼走り国際交流村に12名の会員が集合。日程を確認して岩手山パノラマライン(焼走りから八幡平温泉郷)を経て林道経由で古上坊跡に到着。古上坊は、国土地理院地図にも記載されており江戸時代まで岩手山参拝道の史跡です。当時、鹿角や八戸、岩手県北郡の参拝者が一時仮眠や登山のため身支度の場となった奥行20m、幅3mほどの広さに石を積み重ねた草葺小屋跡が残っていました。古上坊跡には五穀成就攸　左岩鷲山大権現　文政十二年丑六月十二日大更田村長松と刻まれた石標が確認される。周辺には樹齢が300年は超えると思われるミズナラの大木が数本残り往時を忍ばせる。古上坊跡を皆で確認後旧参拝道沿に洞ケ沢の渡渉を予定していたが降雨で増水しており渡渉を避け、迂回ルートから対岸の旧参拝道に入り一合五夕の道標を目指して登る。林道から10分ほどで「文政五年五月吉日」と刻まれた一合五夕の道標に着いた。前後の窪地から旧参拝道跡がくっきりと残っている。

雨は、依然として降り続いており計画では旧参拝道を探索しながら三十六童子(1,640m)を経て平笠不動避難小屋を目指すこととしていた。降り続く秋雨の中の行動を回避し計画を変更して山麓の旧参拝道と旧跡を訪ねることとし岩手山焼走り国際交流村焼走りホールで昼食。

昼食後、松尾地区南寄木の岩手山神社、西根寺田地区の暮坪地区に現存している浄屋(昔、岩手山参拝のため三日三晩この浄屋に籠って身を清めた。)を視察する。雨は依然として降り続いている。西根地区市民センターに再度集合し散会した。今回は予定のコースを踏査できなかったが、昔、身を清め真新しい草鞋を履き、豊作と家族の無病息災、世の安寧を願って歩を進めた信仰の山道に畏敬の念をもって、是非チャレンジしたいと思います。

参加者12名：幹事=高橋時・平山順子・阿部陽・中屋・高野・澤口・滝浦・照井
小山田・久保・ゲストJAC会員２名

例会山行「愛染山 1227.6m」
鳩岡美波

令和４年11月13日(日)

職場のコロナが落ち着き約４ヶ月ぶりの山行だった愛染山。20代も後半になれば体力の衰えを実感した。

雲があるも、寒すぎず暑すぎず丁度いいお天気。少し登って振り返ると海がちらり。1年前にもこの時期に澤口さんと個人山行したお山。あの時は寒くて初雪を迎えてたなぁと懐かしみながら進む。作業道を進むと松がどん！苔がわんさか！笹がやぶやぶ！久々のこの感じ!!視覚も嗅覚も刺激されてたまらない！小休憩のおやつ、鯨山の灯台が見えるか見えないか皆で笑って急斜面を登って太陽がちらり。頂上手前は開けてて低い薮が広がってサバンナみたいで走り出したくなるようだ！五葉山の貫禄もなんとも言えない出で立ち！頂上にはハートの可愛らしい看板が♡幹事の森さん、一人ずつ可愛く写真を撮ってくれた。

（愛染山のハートの看板♡）

帰りは森さん、加奈子さんは仕込みのため先に下山。実は副幹事だった私。下山は先導させてもらった。ピンクテープと久保さんを追い、苔で滑りやすい道を下る。衰えた太腿ではブレーキが効かず、ただひたすら進んでしまった。安全な道を確保しながら、後方も確認しながら歩くのは大変だと感じた。

久しぶりの山行はコロナ渦でも山に行ける幸せを感じた。今回副幹事だったが、おもてなし＆先回りの森さんに頼りっぱなしだと反省。次回幹事をさせてもらうことがあれば、準備から帰宅するまで、責任を持って努めたいと思った。

（愛染山山頂にて）

参加者16名：幹事= 森・鳩岡・阿部陽
中屋・鴇田・澤野・久保・熊谷・高野
高橋瑞・齋藤・小山田・照井・高橋勇
今野・滝浦

例会山行「メンズクメ山 744m」
熊谷加奈子

令和４年12月10日(土)

地図を広げると何故か気になる山の名。妙に気になって仕方がないカタカナ山名シリーズ。今回はメンズクメ山だ。

幹事はＪＡＣ永年会員の渡邉さんと年波のいった新参者だ。私の山行計画は伐採された作業道を使い３０分程で山頂到達。物足りなさはあったがそれ以上広げる事も深める事も出来なかった。

「５０年前は、樹林の中で全く視界のない山だったけど、今は伐採が進み逆にそれが良く眺望抜群の山となりました。」と渡邉さん。５０年前に歩かれた山と現在を比較できる事に驚くと共にその重みに感動しました。渡邉さんの計画は、とても魅力的なもので山頂から東側稜線を歩き三角点２座タッチするというものでした。

当日はお天気にも恵まれ、真っ青な空と歩を進める毎に移り変わる雪をまとった山並。山名を聞く毎に皆の歓声！「次はあの山」「あそこの山はなに？」「行かねばなるまい」歩きたい山ばかりで希望は膨らむばかりです。

下山後は、田茂宿の絵入りの石碑と牛転ばし峠街道入口を見学し歴史や文化にも触れ、ますます興味をそそられたメンズクメ山となりました。

（鎌と刀が刻まれた石碑）

今回渡邉さんとご一緒に幹事をさせていただきその山ならではをとことん楽しむ、また楽しませる為にどうしたら良いのか学びの多い山行となりました。

山行資料を添付いたしましたのでご参照ください。（※11ページ参照）

山行終了後は、盛岡からわざわざ銀杏ご飯を作って届けて下さった菅原純悦さん。私達の手元に届くまでほっこりと温かく菅原さんの細やかな御心配りと一緒に頂きました。とても美味しかったです。ありがとうございました。

参加者13名：幹事=熊谷・渡邉・中屋

高橋勇・澤口・滝浦・齋藤・鴇田・高野
高橋瑞・川村和・阿部陽・小山田

例会山行「網張温泉スキー場」

久保　豊

令和５年１月７日（土）

風もなく快晴。周辺の山々は清んだ空気のなか雪の白さと空の青さにはえて、年一度か二度しか見られない美しい山容。ストレッチ体操を終え9:30頃リフトに乗る。ゲレンデのコンディションも良くスキーがよく滑る。

（快晴の網張温泉スキー場）

午前中は、アルペンスキー、山スキー装着者全員で基礎的な練習。ポジショニングの確認（滑降時、ターン時）、斜滑降、横滑り、中回り～大回り、シュテムターン時の荷重、体軸の移動、小回りの基礎練習、全般的に外脚を意識したターンを練習。

昼食休憩をはさみ午後は、長い距離を滑ることを意識して、第１リフトから第３リフトまで上がり、午前中に練習したいろいろなターンを取り入れ休みながら一番下まで約 3.5ｋｍを滑降。これを２度繰り返えし14:45に終了。特に山スキーの小山田千鶴さん、高橋瑞穂さんは本格的に８キロ前後のリュックを背負っての練習でしたが疲れもみせず頑張り、スキーへの情熱や向上心に感心した。

午前中の滑りと比べ午後の中斜面での中回りから大回りでは、滑りに劇的な変化が見て取れた。今回の活動では、私を含めたシニアにはハードだったかなと自省。また各自、苦手な所や上手にできた所など再確認し、さらに楽しみながら技術向上にお役立ちになれたらいいかな、と活動を振り返っている。

休日で他グループや子どもたちのスキーヤーも多かったが無事安全に活動を終えた。

参加者10名：幹事=久保・中村龍・高野
阿部陽・滝浦・高橋瑞・今田・照井・西村
小山田

例会山行「桐ノ木沢山 1208.6m」

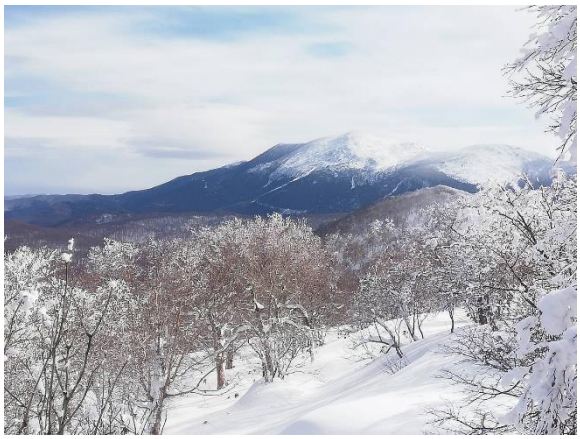
阿部陽子

2023年２月４日は２月例会山行、朝から晴れ無風であった。「桐ノ木沢山の天候がこんなに安定したのは初めてです」。この林間を何度も滑っている新川さんが言うのだから絶好の山日和だ。足元はスキー２名・スノーシュー９名の混成チームで桐ノ木沢山の山頂を目指した。

盛岡市と宮古市の境、国道106号区界駅より南東５kmに位置する1209mのピークが桐ノ木沢山である。ピラミダルな美しい山体でありながら、周辺の峰々に阻まれたり早池峰山と重なったりして、なかなか特定しにくいので、兜明神岳や岩神山の中腹から眺めておくことをお奨めする。

登る場合は、桐ノ木沢山踏切を渡り、林道を約１時間南進してブナの疎林に入る。この数日で雪がどっさり降ったらしく、厄介なササは雪に押しつぶされ、ブナやナラの巨木の森と化していた。スキー組が新雪を切り拓いていく。ミニ休憩の後、シュー組が先頭を交代したけれど、ほどなく追いつかれた。

桐ノ木沢山の踏ん張りどころは、標高200mの冷気ゾーンにある。1000m を超すあたりで厳冬期の厳しさを突き付けられる。頬の感覚が失せ、指先はかじかむ。それだけに山頂で眺めた早池峰連山は、なお冷たく秀麗だった。



（山頂から望む厳冬の早池峰山）

かなり前の初夏、岩手支部例会で桐ノ木沢山を登ったことがある。その時は、砂子沢集落からのピストンだったが、密林のようなササヤブを漕いだ記憶はいまだに忘れがたい。上半身が前につんのめり、足は地に着かず、まるで宇宙遊泳のような格好でもがく様をご想像あれ。「超一級のササヤブ」と表現されるとおり、沢に向ってなびく太いササに抗うことは容易ではなかった。その後、積雪期に限って登るようになったが、山頂に立つ度に、桐ノ木沢山のあの二等三角点の感触が甦る。

（桐ノ木沢山山頂にて）

踏切のそばに住んでいたＹさんの話によると、「桐」の木も花もこれまで見たことが無い、と首をかしげた。区界は700mを超す高所であり、ソバや高原野菜を育てる開墾の地であるから、キリの植生というよりはむしろ、「草木を切り除いて、開墾した土地」の意を山名に込めたように思う。

終始笑顔でラッセルし、スキー組とスノーシュー組を離さずに登降させた新川さんのリードに感謝する。また、高岡さんの脚力にも助けられたし、テレマークの鴇田さんはベテランの滑りだった。登り口の民家の方は、我々のためにと早朝より除雪して快適な駐車場を提供して下さった。この場をかりてお礼を申し上げたい。往復５時間の山行は無事終了した。

参加者11名：幹事=阿部陽・新川・斎藤
滝浦・照井・中屋・澤野・森・熊谷・鴇田
高岡

例会山行「毛無森 903.8m」

久保　豊

令和５年３月 18 日(土)

「毛無森」二戸市浄法寺は、西岳(1018m 一戸町)の北に接し､方角によりピラミダルな山容を見せる。地形図では頂上付近まではどこも急峻で北側稜線からは比較的登りやすい。

山頂付近一帯は山名の「毛無森」の森をイメージする樹木はほとんどなく 360 度の展望を楽しめる。登山最適期は、残雪期で雪が締まって歩きやすい早春。また春の雪解けが進み背丈までの細く長い草木が雪の重みで横になり起きてこない歩行に適した時期か。かねてより登ってみたいと思っていた山である。

(偵察時に発見した何かの木)

岩手県内には「毛無森」という名の山は 4 座。他県には名称の山はなく本県のみの一つの山で貴重な登山となった｡｢毛無山｣は多い。ついでに「毛無森山」は県内２座。(「日本山名辞典」三省堂より）今回の「毛無森」は月例会登山となり感謝している。

集合場所のカシオペアセンター大嶺(おおらい)分館より車で除雪されている最終侵入地点まで進む。

今回は、下見通りに駐車地点から大叉沢沿いの車道を約１時間歩き登山地点到着。東側斜面 30 分くらい登るとしだいに斜面がきつくなる。東側の急斜面なので西風での降雪が溜まりやすく量も多い。ツボ足では膝からお尻まで落ち込むことがある。装備のスノーシューが役立つ。

頂上が近づくと斜面が緩み雑木林も少なくなる。頂上からは近くの田代山、西岳稲庭岳、遠くは岩手山などの山々を望める。二等三角点は雪の中で確認はできず。30 分の休憩後、集合写真を撮影して下山。帰りのルートは比較的斜面が緩く歩きやすい北の稜線を進む。途中２時間ほど歩いたところで見捨てられた老朽廃社の小さな駒形神社を発見。石柱には昭和 23 年と彫られていた。

(毛無森山頂、奥には岩手山)

その後、稜線沿いを 45 分くらい進み 4 等三角点の「大叉山」(546.8 ｍ) を確認する。稜線上の伐採された空間から雪の八甲田山連峰、大中台牧野や三ツ岳を愛でる。また歩を進め農道に出て、道なり進み車道の駐車地点に全員無事に到着した。

(朽果てた駒形神社を発見)

参加者 11 名：幹事=久保・高橋勇・高橋時阿部陽・中屋・滝浦・齋藤・照井・高橋瑞今野・高岡

令和４年度（２０２２）日本山岳会岩手支部１２月例会資料　　渡邉博厚

1. 山名と標高　『メンズクメ山』744.5メートル（海の見える眺望の山）

2. 所在地　下閉伊郡岩泉町下有芸字鉢神

3. 歴史　　古くは南部藩の山、明治以降は国有林となる。
昭和28年、地元集落有志による『鉢神牧野農業協同組合』が払下げを受け
林間放牧地として活用するが昭和40年代後半に放牧は終結。
　平成元年度から西側猿沢川沿いの『鉢神』と東の摂待川沿い『田茂宿』の両側から工事がスタートし山の北側に『広域基幹林道メンズクメ線』が何年も掛って開通した。また山の南の栃の木から平成23年『林道鬼の坂線』も西側尾根越にメンズクメ林道と交差した。平成末には山頂への最短と思われる林道から作業道が入り三角点の100メートルほどの東を通過し山の南東面の伐採が始まる。
　尚、『メンズクメ林道』東側入り口から摂待川下流へ600メートルの『槻の木橋』から『中倉』へ向かう山越えの道を『町道メンズクメ線』（昭和33年開通）と岩泉町はなぜか表記しています。お間違えのないように。

4. 山名の由来　　地元『田茂宿』の古老の話。山頂(三角点)東側の比較的『平坦な水場』を地元では古くから『メンズクメ』と呼んでいた。この山に水場はここ一か所だけである。従って夕方には放牧中の牛をここ『メンズクメ』に集めて水を飲ませて休養させていた。『メンズクメって何の意味か』と聞いたがそれは解らないと。

5. 山名考察　　日本山岳会『新日本山岳誌』（平成17年11/15発行）三省堂『日本山名辞典』その他様々な出版物に『メンズクメ山』の記載がある。倭語（漢字）では『面附山』と『面桶工面山』が出ているがしっくりしない。もし倭語（漢字）でとなれば『面附目山』はどうか。面は顔、附くは顔に付く、目は水である。『平坦な場所に有る水場は人間では顔の中の目である』田茂宿の古老の話から『平坦な水場を持つ山』が『メンズクメ山』となる。エミシ・アイヌ語説もあるが、水は『ワッカ』水たまりは『ペチチャ』山は『ヌプリ』深山は『メトツ』はどうもはっきりしない。エミシ・アイヌ語説ではないのかも。もっと調べないと解らない。

6. オンズクメ山との関係
昭和60年発行第3刷修訂版『日本山名辞典』（三省堂）の『メンズクメ山』の項には『オンズクメ山』との関係は記載なしだが平成23年改訂版では『この山の西にある毛無森941メートルをオンズクメ山ともいう』と記載されていた。
　また『新日本山岳誌』には、『この山の北方に猿沢川を挟んで対峙する大森(680メートル)があるが、この山は里称オンズクメ山と呼ばれ、メンズクメ山とは雌雄対称の山との説もある』と記載されていた。他にも何冊かの本に記載されていたので調べてみ

た。鼠入、森山、月出、馬飼野、上有芸、栃ノ木、皆ノ川、肘葛、田茂宿、その他にも。地元古老から地図と、本、写真を見て頂き聞き取りをしてみたが、残念ながら『オンズクメ山』の名称はどなたからも聞く事はできなかった。全員がこの山々の麓に長年住んでいる古老と呼ばれる70代後半から80代、90代の方々でした。どこの誰がどの山を『オンズクメ山』と呼んでいたのか不思議な話である。とにかく、今現在『メンズクメ山』の回りには『オンズクメ山』と地元の人が呼ぶ山はない。

7. 山容　山頂から東南東に長い稜線を持ったほぼ独立峰に近い姿だ。南から望むと地形図の通りで全てが700メートルを越える5つの峰が行儀良く並んでいる。左が三等三角点の山頂(744.5 メートル)だ。贅沢にも東南東に 1300 メートル離れた 5 番目の峰に三角点(713.2メートル)を持つ東峰(仮称)もある。南面は作業道が無数に走って伐採が進んでいる。一番立派に見えるのは北と南に尾根を走らせて風格のある西側からかも知れない。

8. 気象と注意点

山の周囲を舗装された道がグルリと走り簡単に一周が出来る。そんな独立峰で標高も 745 メートルとこの付近では高いので風が強い。海まで僅かに 13 キロと近く夏はヤマセの影響を受けることもある。年内の積雪は少ないが春のドカ雪は度々で一晩に50センチ超えもある。

もう58年近く前の昭和40年(1965年)3月13日、この山から直線で5キロ南の笹平林道(現在の県道 40 号)で日大ワンゲル部男子 2 名が積雪と猛吹雪で遭難死している。一行は15名で有芸から宮古市田代の亀岳小学校での地元青年会との交流会に向かう予定だった。慰霊碑が風吹平県道左側(宮古から来ると)に今もある。

9. 見晴らし

作業道が走り伐採が進み北、東、南の眺望に優れている。

西側は三角点付近一帯に林が有り見えずらいが何とかなる。東峰(仮称)まで歩けばもっと西側もみえる。東は北山崎付近の海から閉伊崎の海が、南東に宮古湾と御殿山(宮古月山)も、南西に峠ノ神から亀ケ森がデカイ。西は柴森(934.5 メートル)の奥に堺ノ神も。北はすぐ近くにテレビ中継所のある大森(680.2メートル)が、大森の左に野辺山、明神山、そして宇霊羅山の奥に黒森山とすぐ右奥に折壁岳、そのすぐ奥には遠島山も、黒森山の左に目立って穴目ケ岳、もっと西には姫神ウインドパークの9基の風力発電機も見える。鯨山や十二神山も見えるが紙面の都合ここまでに。

県山協　残雪期講習会

小山田千鶴、鳩岡美波

（小山田）

2022年５月21日、22日の２日間、残雪期講習会に参加させて頂きました。

例年今の時期に行われているとの事でしたが私自身、初参加の為、また、岩手支部へ準会員として入会後の初めての活動でもあり、とても緊張して乗り込みました。『山の講習会』って、なんだか敷居が高い気がして緊張感満載でした。

21日、夕方に国見温泉の森山荘さんにて座学。講師・指導員さんより、ピッケル・アイゼン各部の名前、扱い方等を実物とテキストを合わせながらご指導頂きました。

その後は膝や足首の捻挫に有効なテーピングの仕方を２人１組で実践。きっちりキレイに、有効に貼るのはこれまた難しかった。テーピング後、足を曲げづらく固定されているのを感じられました。昨年、早池峰山縦走中に捻挫をして痛い目を見た事あり。

このテーピング方法を知っていたら、また何か違っていたのかもしれないなあ... としみじみでした。

（テーピングを施す小山田会員）

座学後は、各山岳会で部屋ごとに懇親会。ガチガチに緊張して乗り込んだので、まさか懇親会があるなんて💛

久しぶりの宴。森さんがびっくりするくらいの沢山の美味しいごちそうを手作りして持ってきてくれました。持ち寄りのご飯をみんなで囲んで頂くのってやっぱり幸せな時間でアッという間に過ぎて。当然飲みすぎ、次の日は二日酔い。反省でした。豪快にいびきも掻いていたはず。同室の皆さんに申し訳なく思うも朝が来ました。

（お待ちかねの懇親会、たくさんのご馳走）

６時に国見温泉登山口スタート。初級グループに参加。指導員の土村さん、中島先生は優しいペースで進んでくれました。横長根、小岳分岐あたりで地図読み、ムーミン谷の入り口に着くと真っ白なガス。まずは雪上歩行について、その後はピッケル・アイゼン無しの滑落訓練、それが出来るようになってからピッケルを持って、最後はアイゼンを履いて…と段階を踏んで、丁寧に教えて頂きました。滑落停止訓練は野球の千本ノックみたいでした。滑って止めて、そして登るを繰り返し。斜度がきついと止まらない、疲れてくると登るのも辛い。スポコン魂な練習の中で特に足を上げるのが、腹筋不足を実感。雨でびしょ濡れで寒く、ピッケルを持つ手も帰る頃にはプルプル。

上級・中級・初級、さらに班ごとに分かれての行動、各班ごとにまた違う内容のようでした。滑落停止訓練、残雪期講習会、とても

勉強になりました。さらに次の講習も楽しみです。安全に山を歩いて無事に家に帰る事が一番大切だと思うので、これから、さらに勉強させて頂きたいと思いました。ありがとうございました。

（鳩岡）

２日に渡り残雪講習会に参加した。1日目は座学。雪山で使う用具や動作、横文字を確認。我らが勇一さんも講師として居ました！

（資料説明をする新米指導員の高橋会員）

夜はお楽しみのお食事会。森さん手作りパーティ!!

２日目。曇り空の中、昨日の復習をしながらアイゼン歩行や滑落停止を行った。天気は徐々にガスがかかり、寒さも厳しさを増した。手がかじかんで、体も思うように動かない中、不意に講師に背後から押され滑落停止。想像以上に自分の体を停めるのは大変で、雪山の厳しさを実感した。

（滑落停止訓練）

参加者８名：澤口・高橋勇・鳩岡・小山田森・熊谷・高橋瑞・澤野

県山協　沢登り講習会

高橋勇一

令和４年８月７日（土）

昨年に続いて沢登り講習会に参加しました。今回、岩手支部からの参加は小山田会員と私の２人。私は元々、泳ぎが全くと言っていいほど出来ないので、講習会の時にしかやりません。去年初めて沢登り講習会に参加したのも、指導員の資格を取ろうと思ったからでした。

去年なんとか指導員の資格（コーチⅠ）を取る事ができましたが、泳げないので出来れば避けて通りたい事のひとつでした。私が指導員を目指すことを決めた時に、阿部支部長の計らいで、平山順子会員に連絡をしていただき、県立大学のクライミングサークルに参加させてもらいました。

前年に沢登り講習会に初めて参加した時に感じたのは、岩登りの要素が大きい事でした。この時に県立大学で練習した事が活かされたなと実感しました。

（懸垂下降に挑む小山田会員）

少々話が逸れましたが、今回の講習会では初級コースに参加しました。昨年、スマホを水没させ地図も濡らしてしまった失敗がありましたので、そこは十分に対策して参加しました。初級コースという事もあり、泳ぎが必要な所や、特別ロープを使わなければ登れないような所はありませんでしたが、予定していた行程を半分も行かない辺りで雷が鳴り始め、リーダー判断により登ってきた沢を引き返す事になりました。「沢登り」という名のとおり、沢を登る事はあっても下る事はあまり

ない事だと思うので、それもいい経験となりました。

ロープ無しで登ってきた沢も、下るとなるとロープを使い懸垂下降しなければならない所もあり、初めての懸垂下降をした小山田会員は苦労したと思います。後日、岩登り講習会に備えて啄木公園で懸垂下降の練習をやりました。

泳げない私なので、いまから泳ぎを覚えるのは少々難しいと思いますが沢登りも楽しめるようになれればと思います。

参加者２名：高橋勇・小山田

県山協　岩登り講習会

和泉由美

令和４年８月28日(日)

(一社)岩手県山岳、スポーツクライミング協会による令和４年度岩登り講習会、指導員研修会が開催されました。

（高さ８メートルのクライミングボード）

会場は、展勝地(北上）雨の場合は、北上市総合運動公園の会議室、クライミングボードを使用して行うようになっていました。いずれも集合場所は、展勝地駐車場へ８時半から８時50分集合でした。初めてのクライミングに緊張していた私ですが、集合場所で指導者の土居先生と鎌田さんの話を聞くうちに段々と落ち着いてきました。

当日、雨天のため、北上市総合運動公園の会議室に会場が変更になりました。参加者は指導者も含め28名でした。岩手支部からは高橋勇一さん、小山田千鶴さんと私の３名の参加です。はじめに会議室で顔合わせ自己紹介を行いました。その後初級中級上級と指導員の４班に分かれ、この時、顔見知りと同じ初級班になり、緊張がほぐれました。

座学では道具の説明がまず最初にありました。クライミングではUIAAの定める基準を満たしたロープを使用する、ハーネスの装着時の注意点、カラビナは支点が移動しないスプリングバー付きのものが良い、ビレイの際は革手袋使用など、クライミングに必要な道具を資料を見ながら学ぶことができました。

ロープワークの実習では、初級班は八の字の練習を行いました。基本の八の字ですが、マスターするのは難しく、きれいに仕上がって、褒められた時は嬉しかったです。雨の状態がよくないので、引き続き、室内での講習になりました。

いよいよ、初体験のクライミングボード、最初は手も足も届く所にホールドがあるのですが、足が届かない場面に直面し、恐怖心が先立ち、どうしても一歩が出せなくて、諦めました。後になり、この事は後悔となりました。次に８メートルの垂直降下とそのビレイの練習です。高さに驚き、ロープに体重を預

けて、まず、ロープが正しく装着されているか、確かめるのですが、それが中々、怖くて出来ない。それなのに、ロープが自分の身体を支えていると、実感できると安心できアドバイスの声に従い、無事に８メートルの垂直降下が出来ました。

二回目は少しスムーズに出来たと思います。指導者の方々のアドバイスの声は本当に有り難かったです。ビレイは下降する人の速度に合わせて、ロープを送って張っていくのですが、意外に早く、思うように左右の手が動かなく、課題となりました。今回は雨天の為、室内での講習会でしたが、晴れていたら陣ヶ岡　約12メートルの岩場での練習予定だったそうです。実際の岩場でもクライミング、やってみたくなりました。講習会では指導者の方々には大変お世話になりました。温かいご支援があったから、わたしにも垂直降下が出来ました、本当に感謝し、講習会に参加して良かったと思っております。

参加者３名：和泉・小山田・高橋勇

県山協　初冬期講習会

高橋瑞穂

令和４年12月３日(土)

県山岳協会の初冬期講習会に５名で参加した。私は４回目の参加であり、JAC岩手支部からの初参加者は２名であった。

（ビーコンの動作チェック）

今年は全体の参加者が40名程度と多く、三ツ石山荘の定員オーバーのため、全員は小屋で寝られず、ビバーク、テント泊の可能性も…という噂であった。私は冷え性、寒がりなので小屋泊以外は考えられない。しかし、他のメンバーはビバーク覚悟で準備を進めている。頼もしいやら信じられないやら…　結局はコロナがまた流行傾向ということで、初の日帰り開催となった。

６班に分かれ、松川温泉登山口からスタート。班毎にアバランチトランシーバーのチェックを行い、読図しながら進む。今年は積雪が少なく、ツボ足で登り始め、ついには三ツ石山荘までツボ足であった。笹が目立ち跳ね返りが多く、山荘周辺の湿地や沼は凍っておらず、池ポチャ注意。ここまで積雪が少ないのは初めてであった。

（ツェルト張りの講義中）

山荘到着後、山荘前でツェルトの張り方の講義。ツェルトの種類や張り方のポイントを学んだ。その後、２～３人で一つのツェルトを張り、その中でお昼休憩を摂った。

昼休憩後、講師陣によるアバランチトランシーバーを使ったコンパニオンレスキューを見学した。さすが機敏で無駄のない動きであった。

天候不良と時間がないため、三ツ石山頂には行かず、下山となった。

登山口周辺で班毎にアバランチトランシーバーを使用し、埋没者の探知方法を学んだ。素早く、的確に探知するには繰り返しの訓練が必要である。

今回、例年では二日間で学ぶ講義や訓練を一日で行ったので、特に初参加の二人はハードであったと思うが、しっかり学ぶことができたようであった。毎回、積雪や気象条件で講習内容が変化したり、一度や二度では理解しきれないことも多いため、今後も講習会に参加し、知識や技術を習得、確認する必要がある。参加者５名：高橋瑞・今野・鳩岡

小山田・高橋勇

岩手山八合目避難小屋当番

澤口誠

令和４年９月３日(土)～４日(日)

今年もやって来ました日本山岳会岩手支部の岩手山８合目避難小屋の小屋当番。たくさんの食材や荷揚げ物を分担して八合目避難小屋まで担ぎあげます。今年は青森支部の応援もあり、とても助かりました！ありがとうございます。

（岩手支部の会員と協力頂いた仲間達）

１日目の仕事は12時までに小屋に着き、物品販売のお手伝いをする事。最近重いの持ってないので背中のガソリンが重い･･･途中みんなと別れてトップで小屋に。登山者も沢山居てカップラーメンや手拭いを買い求めていました。今年は新しいバッチもあります。JACのメンバーも次々と小屋へ。夕方まで物品販売してお楽しみの懇親会。

今回は食担二人で頑張ってもらいました。豪華で全て美味しい！山友の作るピザも最高に美味い！８時の消灯後、外で二次会。

（岩手山で岩手山🍶）

翌日６時食事開始。これまた最高の朝ごはん。それぞれ担当を決めて掃除開始。私は不動平小屋の清掃と山頂パトロール。綺麗に使っていただいてるおかげでとても綺麗。使用済みトイレットペーパーの回収して山頂へ。

今日は当たり日！山頂からは素晴らしい景色が広がっていました。お鉢回りして下山。小屋に戻り、物品販売のお手伝い。

早朝の下界の天気のせいか登山者が少ない。ツアー団体の方々にグッツを沢山買っていただきました。その後は登山者もまばら。八合目から上は最高の天気だったんですけどね。お昼までお手伝いして下山。みんな大変よく頑張りました。

最高の２日間でした。メンバーに感謝です。

岩手山最高ー！

参加者11名：澤口・阿部陽・高橋瑞・今田久保・小山田・青森支部３名・一般２名

岩手山冬期小屋切替作業

澤口誠

令和４年10月15日(土)～16日(日)

岩手山八合目避難小屋の冬期小屋切替作業にJAC岩手支部から澤口、高橋（勇）で行ってきました。

雨の中小屋を目指します。食材や薪などをそれぞれ歩荷して小屋まで。明日ではお賽銭回収が凍って出来ないかもしれないという事で初日に山頂へ。悪天候にも関わらず、たくさんの人が山頂に居ました。

小屋に戻り小屋の片付けなどをして懇親会。楽しかった。

２日目はご来光組の音で目覚める。外に出ると、そこまで寒くは無い。小屋から姫神山、早池峰山が見える。今日は良い天気にな

りそう。私は小屋からご来光を見て、朝食食べて作業開始。

分担はすでに決まっている。貼ってある分担表で確認。山頂パトロールと今日も賽銭回収。そしてメインの奥宮の通路のロープの支柱抜き。これがキツい！本当にキツい！曲がった支柱は抜けない！腰にくる。

（支柱抜きに悪戦苦闘）

全部支柱を抜いて小屋に戻ってさらに切替作業。今年は表の扉から中に入れます。もちろん冬期入口は後ろにも有り。

帰りは毛布や不用品の荷下げ。登りより重く、これはこれでキツい。

ストーブで燃やせないダンボールや不要の毛布など協力して荷下げしました。

下の東屋では薪の整理整頓。大量の薪を屋根の下に。

作業が終わった時にはフラフラでした。

管理人の皆様、サポートの皆様そして薪を運んでくれた登山者の皆様、今年一年間お疲れ様でした。

感謝！

参加者２名：澤口・高橋勇

※小山田会員も当日遊びに来てくれました。

編　集　後　記

高橋勇一

遅れに遅れた支部通信55号。今回で４度目の編集ですが、どうにか編集できました。

前号もそうでしたが、やっぱり思うように編集できません(笑)途中までうまく出来ていたつもりでも、何故か途中から文字数や行数の設定が変わっている(；´Д｀)慌てて設定を直しレイアウトし直すと、変な余白ができて直そうとしても直らない…なんて事も(汗)

それはそうと、令和４年度の始まりは随分と雨に祟られた始まりだったと思います。５月の残雪期講習会から始まり秋田街道古道調査、それも２回とも...そんな始まりだった令和４年度でしたが、今回の支部通信も会員の皆様のご協力のもと発行にこぎつけることができたこと、感謝したいと思います。